

茨城県立こども病院だより

令和 8 年 9 月 30 日 第62号



表紙写真：新生児救急車（ラッコ号）

指定管理者 社会福祉法人 日本赤十字会 茨城県済生会

効率化の時代にこそ大切にしたい 「人に向き合う看護」

看護局長 平賀 紀子



少子化に伴う小児患者の減少、労働人口の減少による看護師確保の困難など、医療を取り巻く環境は大きく変化しています。これらは病院経営にも影響を及ぼし、限られた人材で質の高い医療を提供し続けるために、働き方改革や業務効率化、医療DXの推進が求められるようになりました。

当院では、昨年度から看護管理者を中心に組織分析と業務改善に取り組んできました。申し送りの縮小・廃止、情報共有方法の工夫など、現場の声をもとにした改善を積み重ねることで、看護師がより効果的に時間を使えるようになってきています。こうした効率化の取り組みは、看護師の負担軽減や働きやすい職場づくりに欠かせないものです。一方で、患者さんとのコミュニケーション、寄り添い、個別性への配慮といった“人と人の関わり”のニーズはむしろ高まっていると感じています。不安を抱える患者さんの表情の変化、沈黙の意味、生活背景に寄り添う姿勢など、デジタルでは代替できない看護の価値があります。DXや業務効率化を進める今こそ、看護の本質である「人に向き合う時間」を守ることが重要だと考えています。私たちは、効率化と看護の価値を両立させるために、これからも組織改善を続けていきます。DXは看護を置き換えるものではなく、看護師が患者さんに寄り添う時間を確保するための道具であるという姿勢を大切にしていきたいと思います。

今後、病院統合や電子カルテ更新など、当院は大きな変化の時期を迎えます。これらの変化は、私たちの働き方や組織の在り方に新しい可能性をもたらす一方で、現場には不安や戸惑いも生まれます。大きな変化を迎える今を、新しいステージへ進むためのチャンスと捉え、小児看護の専門性をさらに高め、子どもと家族に寄り添う看護の価値を守り続けていきたいと思います。

最後に、変化の時代を進んでいくために、看護局として次の3つの行動指針（バリュー）を大切にしていきます。

1. 限りある時間を大切に「こどもの最善」のために行動しよう
2. 自身の「強み」を見つけてスペシャリティを磨こう
3. 一人ひとりの「貢献」を認め合おう

新しく入った医師をご紹介します

吉田 志帆（小児外科・小児泌尿器科）

本年度より小児外科・小児泌尿器科で勤務させていただくことになりました、吉田志帆と申します。2016年より2年間、茨城県立こども病院でお世話になっておりました。その後、順天堂大学や聖隷浜松病院、米国ピッツバーグ小児病院での研修を経て、再度こちらに勤務することとなりました。茨城県の子どもたちの健康に貢献できるよう、精一杯頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

高野 祥一（小児外科）

本年度より小児外科で勤務しております高野祥一と申します。

新潟大学小児外科に所属しており、この度こちらの病院で研修をさせていただくことになりました。

茨城県に住むのは初めてですが、気候も良くとても過ごしやすい環境で、日々の生活も楽しませていただいております。

まだまだ不慣れな点も多くご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、子どもたちの健康のために尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

永盛 太貴（小児科専攻医）

本年度より小児科専攻医として勤務しております永盛太貴と申します。国際医療福祉大学を卒業後、水戸協同病院で2年間の初期臨床研修を行いました。こども病院では地域に根差した小児医療を行っており、魅力を感じております。こども達の健康に貢献できるよう全力で邁進してまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。

駒橋 充（小児外科）

本年度より小児外科で勤務しております、日本大学小児外科から参りました駒橋充と申します。新しい環境で学ばせていただくことも多いかと思いますが、これまでの経験を活かしながら、地域の小児医療に少しでも貢献できるように精進してまいります。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

山田 舜介（小児外科）

5月より小児外科として勤務させていただいています山田舜介と申します。山梨大学を卒業した後、順天堂大学小児外科で研修を積み、念願かなって茨城県立こども病院で勤務できることになりました。今まで学んできたことを活かしながら、ここでしか学べない新しいことも積極的に取り入れて、茨城の小児医療に貢献できるように励んでまいります。よろしくお願いいたします。

武 優希（小児外科後期研修医）

4月より小児外科後期研修医として勤務させていただいています武優希と申します。出身は広島県で長崎大学を卒業した後、長崎県で初期研修を修了した後、筑波大学小児外科で研鑽を行いました。この度ご縁があり茨城県立こども病院で働くこととなりました。至らない点が多く、皆様には助けていただければありがたいですが、精進してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

新事務局長の挨拶

事務局長 小川 悟

2026年4月から事務局長を拝命しました小川と申します。県内唯一の小児専門病院である当院で働けることを光栄に感じるとともに、重責に身の引き締まる思いをしております。

私は県庁で医療行政を比較的長く担当しておりましたが、病院の開設許可や医療法人の設立認可、感染症・難病対策など、「制度を適正に運用し、時に規制する」業務がほとんどでした。一方で、県立病院での勤務経験はなかったため、病院会計や診療報酬制度に関わるのは今回が初めてであるうえ、個々の医療政策についても「制度を動かす側」と「制度の中で動く側」との意識の違いを痛感する場面が多々あります。それぞれの立場を理解して最適解を目指す業務は非常に難しいながらも、大きなやり甲斐を感じております。

6月に厚生労働省が発表した統計では、2025年の全国の出生数は過去最少の67.1万人を記録するなど、少子化は年々進んでおります。しかし、あくまで体感ではありますが、小児医療や児童福祉をめぐる課題はむしろ増えているように感じられます。重症の患児への対応、小児科医の不足に伴う医療提供体制の維持などに加え、認知件数が年々上昇する児童虐待や、小児難病患者の成人医療への移行といった新たな課題にも直面しております。

これら課題に向き合ううえで、高度専門医療や小児救急、総合周産期医療センター（水戸済生会総合病院と連携）、小児科医の育成等を担う当院が重要な責務を担っていることは論を俟ちませんが、紹介・逆紹介を通じた地域の診療所や病院との連携、在宅での療養生活を支援する保健所や市町村との連携、さらには教育機関やボランティア団体など、様々な関係者の皆様との協力体制がますます重要になると考えております。私も、時間の許す限り多くの現場へ出向き、生のご意見をいただいて病院運営に反映させたいと考えておりますので、お気軽にお声がけをお願いします。

また、当院は2034年度を目標とした県立中央病院との統合・移転を予定しており、現在、基本計画の策定に向けて、県立中央病院とともに実務者によるワーキンググループで協議を進めております。当院の有する小児専門病院ならではの特徴・メリットを新病院でも活かせるよう、患者家族や地域の関係機関の皆様の声もいただきながら、十分な討議をまいります。

私の趣味のひとつに将棋がありますが、強さも特徴も異なる駒が互いに協力して共通の目的(勝利)を目指すのが最大の魅力で、駒を上手く使って勝てたときの喜びは何にも代え難いものです。多職種が協働して最善の医療を目指す病院や、様々な関係機関が地域の中で異なる機能を補い合う地域医療連携の姿に、どこか相通ずるものを感じます。(もっとも、私の将棋は序盤・中盤・終盤とも隙だらけで、駒が躍動することは少ないのですが…)

今後もスタッフ一同、こども達の生命と健やかな成長のため努力してまいりますので、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



第二医療局長兼小児外科部長 東間 未来

「小児は小さな大人ではない。」 こどもの体は大人と異なっており、成長の途中にあります。そのため、診療や手術を大人と同じ方法では行えません。手術が必要な小児の外科疾患も、大人のそれとは異なり、先天的かつ体のつくりに関わる疾患が多いのが特徴であり、その治療には成長発達を見据えた長期的な視点が欠かせません。

当科の年間手術件数は現在約500件です。安全に配慮した体制で診療を行うために、日本小児外科学会の指導医資格をもつ小児外科医がすべての手術に関わっており、小児麻酔科医が麻酔を担当しています。心がけていることは、こどもの成長発達を妨げない手術、先天的な疾患を有する児や心身に障害を有する児の可能性を拡げるための外科治療を行うことです。

小児外科が担う範囲は頸部から骨盤まで幅広く、多くの疾患に対応していますが、ここでは当科の主な特徴をご紹介します。

〈新生児外科〉

茨城県立こども病院は県指定の周産期母子医療センターとして茨城県の周産期医療体制の一役を担っており、外科も24時間体制で待機し遅滞ない外科治療を提供しています。

〈小児悪性腫瘍治療における外科の役割〉

県の小児がん拠点病院として当院には小児血液腫瘍専門医がいます。小児外科もがん治療認定外科医を擁しており、腫瘍生検・静脈ルート確保から腫瘍切除まで小児悪性腫瘍の高度な集学的治療に取り組んでいます。

〈小児気道外科〉

とくに喉頭・気道疾患の治療は、わが国では小児外科と耳鼻科との狭間で抜けがちな分野です。当科では気管切開からの離脱が困難なお子さんの喉頭・気道の治療に積極的に取り組んで好成績を得ています。

〈小児泌尿器科〉

小児期には泌尿器系疾患が多くみられます。近年は、小児泌尿器科分野が確立しており、当院には小児泌尿器科専門医が在籍しており、小児外科チームとともに専門性の高い治療を提供しています。

〈心身に障害を有する児の外科的支援〉

心身に障害を有するお子さんは、栄養摂取のための胃瘻や、呼吸の安定のための気管切開、あるいはその他にも日常生活をより快適・安全に過ごすために外科的支援を要することがあります。お子さんの状態に合わせてご家族と一緒に長期的な治療方針を考えていきます。

〈日帰り手術〉

鼠径ヘルニアの手術など、短時間で終わる全身麻酔の手術は日帰りで行っています。こどもへの負担をできるだけ少なくすることを心がけています。

このほか、二分脊椎症など排泄障害を有するお子さんのための専門外来（二分脊椎・排泄外来）や、胃瘻、気管切開などの医療的ケアを有するお子さんのための外来（医療的ケア児外来）でも、小児外科医が専門的な診療を行っています。



○一般X線撮影検査

X線を使って胸部や腹部、骨などを撮影する検査です。

X線検出器であるFlat Panel Detector（以下、FPD）搭載の装置を導入しています。FPDは、より少ないX線量で撮影が行え、被ばく低減が可能です。全脊椎、全下肢など、広範囲の部位を撮影できるシステムを備えています。診療放射線技師が複数名で患者さんの補助を行い、安全安心な検査に努めています。

○造影透視撮影検査

造影剤を使用し、X線で体の中の様子をリアルタイムに観察する検査です。

食道・胃・腸などの消化器や、腎臓・尿管・膀胱などの泌尿器の形や動き、流れの状態を調べることができます。金属などの異物を飲み込んでしまった場合、透視で異物の位置を確認しながら、安全に取り出す処置を行うこともあります。

○カテーテル検査

血管から「カテーテル」と呼ばれる細い管を挿入し、造影剤を用いて心臓や血管の状態を調べる検査です。

特に小児循環器領域において高い性能を有する装置で、正面と側面の2つのX線管球を備え、超低線量撮影を可能にするFPDを搭載しています。医師、看護師、診療放射線技師、臨床工学技士など、多職種が連携し、安全に検査・治療が行える体制を整えています。

○CT検査

X線を用いて体内の断面画像を撮影する検査です。撮影したデータから、さまざまな方向の断面画像や立体的な画像を作成することができます。

320列16cm幅の検出器を備え、短時間で高精細な撮影が可能です。動いてしまったり、呼吸を止めたりすることが難しい患者さんでも、動きによるブレを抑えた鮮明な画像が撮影できます。年齢や体重に応じてX線量を調整し、できるだけ被ばくを低減しています。

検査時に動いてしまう患者さんには、眠っている間に検査を行うほか、検査中に装置内へ映像を投影し、見ながら短時間で検査を行います。

○MRI検査

放射線を使用せず、強い磁石と電波を使って体の中を撮影する検査です。体内の水分や脂肪中の水素原子を画像化しています。

患者さんが少しでも安心して検査を受けられるよう、映像を見ながら検査できるMRI装置を導入しています。動いてしまう患者さんは眠っている間に検査をします。MRI検査では、大きな音がし、暗く、狭い場所で一定時間じっとしていただく必要がありますが、患者さん一人一人の気持ちに寄り添った検査を心掛けています。

○RI検査（核医学検査）

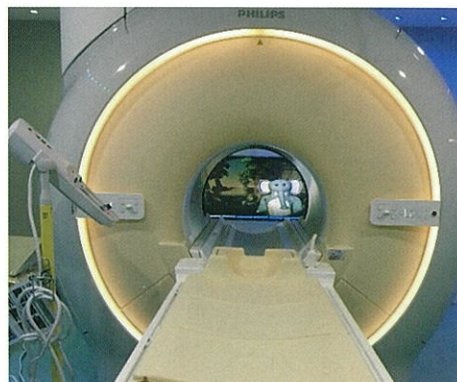
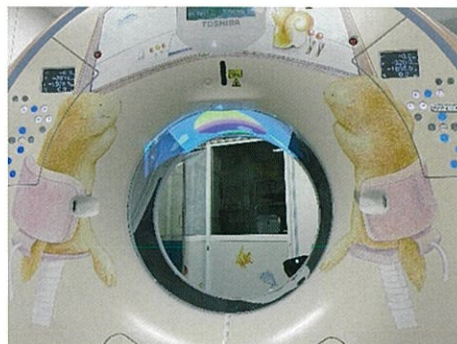
少量の放射性医薬品を使用し、臓器の機能を調べる検査です。

検査では、年齢や体格に合わせ、医薬品の量を必要最小限にし、被ばくを低減しています。

○放射線治療

高エネルギーの放射線を目的部位に照射し、病気を治療します。

病変に線量を集中して照射することで、周囲の正常組織への影響をできるだけ低減しています。骨髄移植を行う前などに、全身照射を行うこともあります。隣接する水戸済生会総合病院と共同利用しています。



第17回日本子ども虐待医学会学術集会 開催報告

～「虐待診療は究極の小児医療」をテーマに水戸で開催～

小児総合診療部長 本山 景一

2026年7月17日～19日（17日はプレコングレス）の3日間、水戸市民会館において「第17回日本子ども虐待医学会学術集会」を開催いたしました。

■ 大会テーマに込めた思い

今回のテーマは「虐待診療は究極の小児医療」といたしました。

自ら被害を訴えることが難しい子どもを対象とする小児医療では、何が起きているかを捉える技術や工夫、さらには養育者支援や多職種・多機関の連携が欠かせません。さらにより小さな「虐待を受けている子どもたちの声」に向き合うためには、これまで小児医療で培ってきた技術と連携を最大限に活用する必要があります。小児医療と虐待診療は地続きであり、虐待診療は小児診療の一つの集大成である——そのような思いをこのテーマに込めました。

■ 水戸大会ならではの豊富な企画と大きな反響

大会では、アメリカの第一人者R.Krugman先生による国際講演をはじめ、各地の院内虐待対策チームによる参加型症例検討、学会の歴史を振り返る記念動画など、初の試みを多数盛り込みました。また、各分野の専門家による教育講演や、虐待サバイバー・非加害親といった当事者の方々のお話しも伺えるシンポジウムなど、多層的な議論が行われました。

おかげさまで、全国各地（北海道から沖縄まで）から3日間で延べ約1,000名もの方々にご参加いただき、地域を越えた熱い議論と新たな連携が生まれました。

参加者アンケートでは99%の方から「また参加したい」とのご回答をいただき、「温かい大会だった」「過去最高の内容」といった嬉しいお声も数多く寄せられました。

また、約200名が参加された懇親会では、大会長自らおもてなしのビールサーバーサービス（那珂キッズクリニック様のご協力）や、学生時代のアカペラバンドによるライブ演奏などの余興も行い、参加者の皆様と温かい交流を深めることができました。

■ 感謝と今後の発展へ

初めての全国学会開催であり、大会長指名からの約2年間は不安も多く不慣れな点もありましたが、皆様の熱気に支えられ無事に完走することができました。

茨城県内の小児医療・行政・福祉・警察・NPOをはじめとする「オール茨城」体制での手厚いご支援、そして齊藤博大委員長をはじめとする当院実行委員会の献身的な尽力がなければ、この成功はありませんでした。心より厚く御礼申し上げます。

今大会の成果が、当県で「子ども虐待」という困難な課題に取り組む方々、そして人知れず悩んでいる子どもたちの未来を照らす確かな一歩となることを切に願っております。



全国の参加者を迎えた実行委員会のメンバー
(水戸市民会館にて)



とても盛り上がった懇親会の様子



昨年度もたくさんのご寄付を賜り
厚く御礼申し上げます。

当院では、企業・団体や個人の皆様に善意のご寄付をお願いし、こどもたち用の図書・玩具の購入や病院内学級の整備など病児の療養環境の向上を図ると共に、健康保険外の先端医療の推進を行う活動を積極的に展開しております。

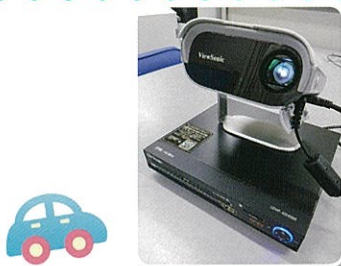
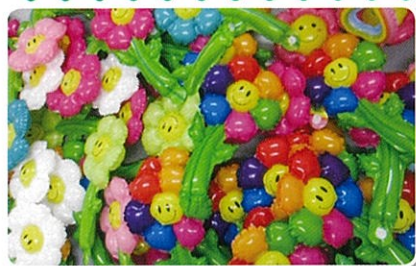
2025年度寄付金一覧

寄 付 者 名	金 額
やまわきこどもクリニック 院長 山脇英範 様	1,000,000円
ライオンズクラブ国際協会333-E地区4R2Z 様	155,000円
公益社団法人生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会 茨城県協会 ジブラルタ生命分会 様	50,000円
岩井ライオンズクラブ 様	301,935円
牛久茎崎ライオンズクラブ 様	68,580円
つくばアウルライオンズクラブ 様	100,000円
大泉砕石株式会社 様	1,000,000円
神栖ライオンズクラブ 様	270,800円
ご縁マルシェYju 様	200,000円
石岡ライオンズクラブ 様	145,137円
筑波ライオンズクラブ 様	100,000円
株式会社ナムロック 様	200,000円
株式会社タイガ 様	1,000,000円
横浜幸銀信用組合 様	300,000円
江戸崎ライオンズクラブ 様	100,000円
茨城県国際女性教育振興会 様	50,000円
三和ライオンズクラブ 様	100,000円
外 団体 4件 77,000円、 個人 9名 1,659,530円	1,736,530円
合計 6,877,982円	



2025年度 寄付物品一覧

寄付者名	寄 贈 品
ヒスターズナウつくば 様	バルーンプレゼント390個、装飾1式×3回 緊急入院用支援バック220セット モビールの工作キット25個、玩具
ヒスターズナウつくば 様 NPO法人プロジェクトサンタ 様	ガチャマシーン 景品944個、カプセル50個
水戸チアフルライオンズクラブ 様	インナーキャップウィッグ10台
水戸葵ライオンズクラブ 様	ぬいぐるみ140個
骨髄バンクを支援するいばらきの会 様	ぬいぐるみ
中安真由美 様	バギー1台、座位保持装置1台
公益財団法人ハーモニー伊藤財団 伊藤光昌 様 (JACHRI事務局)	絵本2冊
外 団体 2件、個人 4名 (座位保持装置、バギー、書籍 など)	



当院では皆様に広く善意のご寄付をお願いしております。
皆様の格別のご理解とご支援をお願いいたします。



窓口

経営企画課
寄付担当

(TEL) 029-254-1151 内線 9213
(E-mail) ich-kifu@ibaraki-kodomo.com



企画集

茨城県立こども病院広報委員会

〒311-4145 水戸市双葉台 3-3-1
TEL 029-254-1151 FAX 029-254-2382
URL <http://www.ibaraki-kodomo.com/>

発行者

茨城県立こども病院

病院長 新井 順一